

株式会社 福永

厚物縫製を生かして アップサイクル事業を展開

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



消防ホースをスパイラル縫製

主な事業内容 高級鞆、袋物、特殊ケースの製造・各種加工(裁断・縫製・型抜)	主な取引先(納入先) 工具メーカー、包丁メーカー	主な製品 工具ケース、包丁ケース、トートバッグ、各種カバー、小物
---	------------------------------------	--

業務内容 厚物縫製技術を生かした アップサイクル事業

福永は、創業以来、工具・包丁ケースの製造を手がける。工具や包丁ケースは、内容物の重量に耐えるため、硬く・分厚い素材を使用する。生地を何層にも重ねるため、その厚さは12mmにも及ぶが、これらを縫製する「厚物縫製」は同社の得意とするところ。この技術を生かして、平成21年には消防ホースに異なる機能やデザインを付加して新たな価値を持たせて再利用する「アップサイクル事業」を開始。消防ホースのほかにも高速道路の横断幕や東京ドームのテントなどの素材を活用しバッグや小物を製造する。

令和元年からは、75年間手作業で行ってきたゴムループ縫製の自動化を目的に「ゴムループ自動縫製装置」を開発。令和6年にはものづくり補助金を活用して特許を取得。化粧道具や釣具などのケース製造にも活用している。

強み 裁断から縫製まで 一貫対応

自社で裁断から縫製まで一貫で手がけることにより顧客ニーズに短納期で対応する。また、素材は天然皮革や人工皮革、帆布、ビニール素材など、切って縫えるものであれば何でも挑戦して加工する。令和4年には最新の大型電子サイ

クルミシンを導入。横600mm×縦400mmの縫製エリアのプログラム縫製が可能となり、大型トートバッグにも短納期での対応を可能とした。また、標準装置で縫製が難しい案件については、縫製箇所に合わせてミシン治具を独自に開発し、生産性と精度を両立。加えて、大阪市の中心部という立地条件を生かしてサンプル試作にも迅速に対応できるのも強みだ。

B to C 自社ブランドの 立ち上げ

消防ホースのアップサイクルを機に、様々な素材に対応するアップサイクル事業を確立。これが評価され、令和5年には「新ものづくり・新サービス展SDGSアワード」を受賞し、同年には、消防ホースで作成した野球のバットケースが「大阪製ブランド認定製品」に選出された。併せて、B to C向け製品を強化すべく、自社ブランド「ChangeUP」を立ち上げた。既存の型を活用してブランド企業向けOEMにも対応している。

企業から提供された素材で「どんな素材をどんな形にしたら、誰が喜ぶのか」をともに考えながら、時には学生を交えながら、実直にもものづくりを行っている。今後は、ワークショップやオンラインファクトリーの開催を通じて技術力や品質の高さを広くPRする予定だ。

社長あいさつ



代表取締役
福永 佳久さん

“無いものは作る”を信念に、製品・道具・装置を開発し、世の中に貢献できるものづくりを行います。企業だけでなく、個人が喜ぶものづくりを行うことで、地元大阪から日本を盛り上げていきたいと思っています。そして、「厚物縫製」「アップサイクル」といえば「福永」と言われるよう努力していきます。

主な保有設備

- 電子サイクルミシン PLK-J6040Rほか JUKI製ほか 2台
- ゴムループ自動縫製装置 自社製 1台
- シートカッター 大石工業製 1台
- クリッカー OHC-FUJI-1型 大石工業製 2台
- 工業用ミシン DU-1281-7ほか JUKI製ほか 7台



住所 / 〒542-0072
大阪市中央区高津
1-7-4

TEL / 06-6761-2365
FAX / 06-6761-6555

創業 / 昭和22年4月
設立 / 昭和45年7月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 8名



電子サイクルミシンによる縫製



自動装置によるゴムループ縫製



<https://www.fukunaga-bag.com/>